

平成28年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	社会福祉法人 京都社会事業財団	代表者	野口雅滋	法人・ 事業所の 特徴	事業所の理念【「思い」「暮らし」「絆」を支援する】を職員全員が共有し実践できる体制を構築し、利用者の「思い」の実現に向けた支援を目指しています。 事業所は長年、地域の人々に親まれた集会場を改修併設され、地域福祉の拠点となっています。地域行事等、地域の住民協働による活動に積極的に参画し、地域との繋がりを大切に事業運営をしています。
事業所名	京都厚生園松尾の家	管理者	久保健太郎		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	2人	4人	1人	1人	1人	人	2人	人	11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	新人や中途採用職員について、日々の取り組みや調整等の周知が出来ておらず「出来ていない」の評価になっていることがあり。普段より職員に事業所の取り組み等を理解できるように工夫を行う。	年間重点目標としてサービス評価の改善計画に沿って運営。職員会議等を通じて周知を図り、一年目と比較すると、事業所の取り組みについて各職員の理解を深めることができた。	・専門的な内容が多く、具体的な計画が分からない。	・運営推進会議で報告する内容を見直し、事業所の取り組みを判りやすく報告する。
B. 事業所のしつらえ・環境	「STTAF ONLY」「スタッフ室」等に変更する。	スタッフルームに表示を変更。	・インターホンが分かりづらい。 ・ボランティアの方からは入りづらいとの意見は聞かない。	・花の鉢植え等、玄関前に季節に合わせた花を植える。 ・花壇設置の検討。(協力頂けるボランティアの募集)
C. 事業所と地域のかかわり	行事以外での地域の関わりが少ない状況。地域の方に身近に感じて頂けるように、意識して積極的に挨拶を行う。	職員間で近隣住民への挨拶を意識づけ、散歩や外気浴の際に、通りがかりの方から挨拶を受けることもあった。当事業所の2階に地域包括支援センターがあり、相談機能を有した事業所として、地域からも認知されている。	・送迎時には特に挨拶をしっかりした方が印象に残る。 ・相談しやすい場所が分からない。 ・地域の高齢者の「居場所づくり」を計画、場所を提供して欲しい。	・地域行事に参加する時、送迎・訪問時、来所時に気持ちの良い挨拶をする。 ・地域の「高齢者居場所づくり」の場所の提供等、協力できることを検討。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	行事以外に散歩や必要性に応じて買い物や支援等の調整を行い、日常的に地域に出て行く機会を提供する。	自宅環境が住める状態になかった独居利用者の自宅へ、郵便物の確認、自宅の整理整頓、草木の伐採等、何度も足繫く通い、近隣の顔馴染の方との交流にも繋がる支援ができた。	・福祉まつりや、松尾中学校展示会等に参加。地域福祉の推進に役立っており、今後も継続して欲しい。	・自宅生活に心配のある利用者の暮らし環境について着目し、関わり方を検討する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議にて事業所内の困難事例の検討過程等を報告し、地域の方々からの意見を参考にケアの改善や工夫に繋げる機会を設ける。	新規利用者の支援経過を報告する機会を設定。利用開始に繋げるうえで委員から助言を頂く場面。また新総合事業開始に向けた地域の取組み状況等を話題とした会議が開催できた。	・気軽に意見を言える。	・会議の年間計画を作成し、テーマを決めて参加者からの意見・評価を受けるようにしていく。
F. 事業所の防災・災害対策	近隣住民参加の避難訓練実施に向けた計画の立案、実施。	近隣住民参加の消防避難訓練を定期的に開催。避難誘導時の協力体制について説明し理解を深め、近隣住民との意見交換の場となっている。	・訓練に参加して良かった。 ・外部非常ベルの音が小さい。またパトライトが低い場所に設置しており気づかない。	・外部非常ベルの音量について検討する。 ・近隣住民参加の避難訓練を継続。 ・地域防災訓練への参加継続。